

## 2025年NCF助成金事業 助成金給付認定講評一覧

※敬称略・登録順・人名は申請時のまま記載

NO	区分	団体名	代表責任者		担当者		研究テーマ	講評
Gr1-2501	研究助成	京都工芸繊維大学大学院 建築学専攻建築論研究室	阪田弘一	学系長	朽木順綱	教授	<b>重層的イマーシブ手法を用いた新たな建築模型展示手法の開発</b>	2021年助成の「多視点による共有が可能な客観型VR/ARディスプレイの設計と設営」の研究成果を発展させ、より現代的な技術とデザインで表現し、建物模型そのものと周りの環境への没入体験を演出することに取り組んでおり、実現性が高い。スケールや建築物のある土地の臨場感が求められる展示において、本研究の発表は空間ディスプレイ研究の今後の発展にも寄与することが期待される。
Gr1-2503	研究助成	金沢学院大学 芸術学部芸術学科 加藤謙一研究室	秋山稔	学長	加藤謙一	准教授	<b>ミュージアムの収蔵展示の空間ディスプレイ上の特性に関する日韓比較研究</b>	博物館収蔵庫の一部あるいは全体を公開していく傾向は国内外において進められており、今後も収蔵面積の不足に伴う収蔵庫の増築において、一つの方向性としてその需要は高まると思われる。空間ディスプレイの視点から博物館機能における公開型収蔵庫の意義について研究され、波及効果が生まれることを期待する。
Gr2-2503	教育普及活動助成	公益財団法人練馬区文化振興協会 練馬区立美術館	小金井靖	代表理事	伊東正伸	練馬区立 美術館 館長	<b>アートマルシェ2025</b>	美術館の建て替えと一体的に街づくりを目指す事業の一環としてアートとまちづくりの融合を促す取り組みであり、練馬という都市空間と美術館をつなぐ教育普及の機会になることが期待される。都内では難しいとされる街空間を利用した美術品展示が実現可能であるということが高く評価でき、美術館をつなぐアートマルシェが、寂れた地方型と都市型とを比較した場合、どのようになるのかも興味深い。
Gr2-2504	教育普及活動助成	兵庫県立人と自然の博物館	村上哲明	館長	福本 優	研究員	<b>オトを楽しむ博物館『そとはく』におけるポップアップ展示空間によるセミナーの実施</b>	アウトリーチ活動の実績を踏まえ、新たにモバイル実験室（屋台）を作成し、日常の空間を特別な展示空間へと変える挑戦的でユニークな博物館の事業として評価でき、地域のライトユーザーの体験機会を創出することが期待される。また、この手法が、人と人・モノ・情報をつなぐためにどのようなコミュニケーションを形成するか、空間ディスプレイとしての意義が明らかになることも期待する。
Gr2-2506	教育普及活動助成	貝塚市立自然遊学館	秋山芳樹	館長	天満和久	博士研究員	<b>空間展示 音と光のシンクロニシティ 命の螺旋</b>	マイクロバットとしての「樹洞（じゅどう）」に焦点を当てた展示で、一方通行的な企画展示ではなく、フィールド調査などの調査段階からのプロセスに地域企業や学生が参加することで、地域協働や次世代育成に寄与する取り組みである。空間ディスプレイとして『鑑賞者が“自分なりに”見る・感じる・考えることで、より想像力を働かせることのできる空間』を創造する取り組みや、他の博物館への影響力を鑑み、実現性、発展性、発信性いずれも高く評価できる。